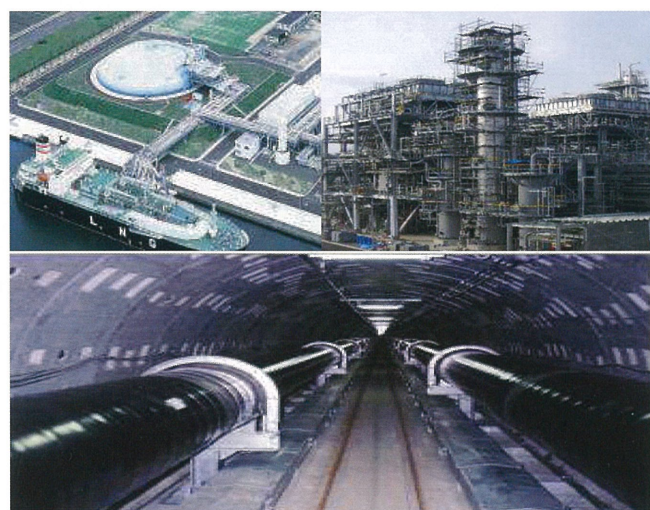


LANEX[®]—AP0201n

爆発性ガス雰囲気のある危険場所(防爆エリア)で、安全・安心に使用可能な無線LANアクセスポイント



防爆型無線LANシステムは、ガス、石油化学、化学薬品工場等に存在する防爆エリアへの適用／設置が可能な無線LANシステムです。防爆型のPDAやIPカメラと組み合わせれば、設備運転データや映像の監視も行う事ができます。さらに、防爆型IP携帯電話との組み合わせにより防爆エリアにて通話が可能となります。指向性／無指向性のアクセスポイントを使い分ける事により、様々なエリア形状に対して最適(ミニマムコスト)なシステムの構築が可能です。



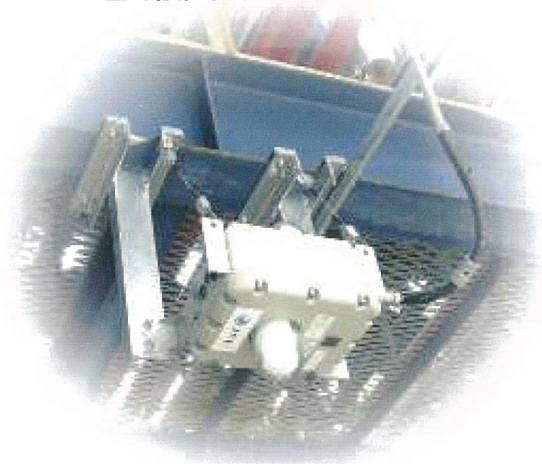
適用が想定される各種プラントエリア

＜主な特徴＞

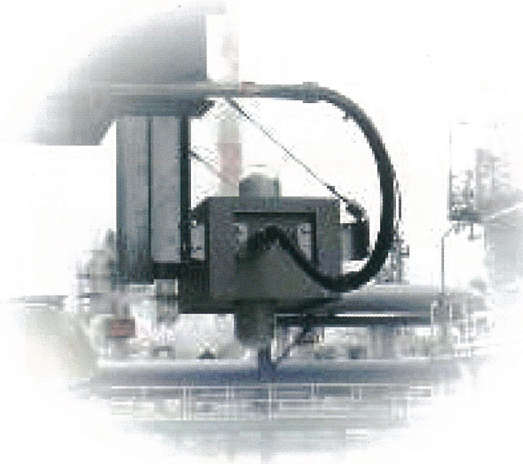
各種等級	防爆等級: Exd II B+H2T4 保護等級: IP54相当
無線LAN	IEEE802.11n/g/b に準拠 (2.4GHz帯)
セキュリティ	各種セキュリティ機能(WPA2-PSK、WPA-PSK、MACフィルタリング等)をサポート
主な特徴	最大300Mb/s(IEEE802.11n(40MHz)理論値)での通信が可能 移動端末がスムーズにローミングを行うために必要な機能(バーチャルセル)に対応 1つの無線LANチャンネルにて、AP間の電波干渉なく、広域無線LANエリアの構築可能 PoE(Power over Ethernet)給電方式を採用 水素防爆エリアにも対応可能
通信距離 ^{注1}	屋外: 約～200m(但し、IP携帯電話による通話の場合は約～150m)

注1: 無線通信距離は、アクセスポイントが設置される環境により異なります。(詳細は現地調査実施要)

屋外設置例(サンシェード無)



屋外設置例(サンシェード有)



<LANEX[®]-AP0201n基本仕様>

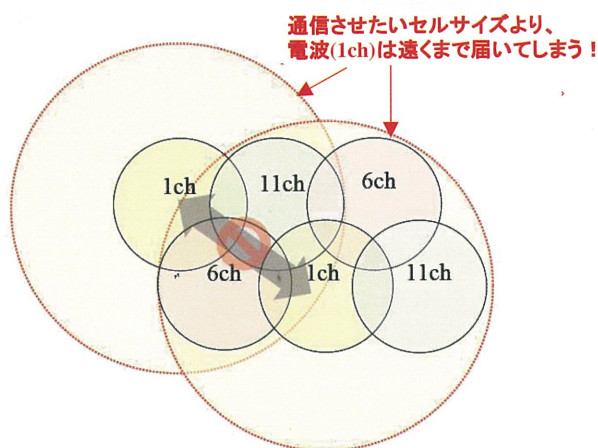
種 別	項 目	仕様 ^{注1}
一般	外形寸法	本 体 : 300mm(W)×365mm(H)×240mm(D) アンテナ部: 90φ×96
	重量	約14kg(サンシェード無し)、約17kg(サンシェード含む)
	防爆等級/検定番号	Exd IIB+H2T4(1種/2種危険場所)/検定合格番号 TC19428号
	保護等級	IP54相当
	使用温度(湿度範囲)	-10℃~40℃ (湿度:~90%RH結露無きこと)
無線LAN部	サポート規格	IEEE802.11n/g/b
	伝送方式	802.11n/g : 直交周波数分割多重方式(OFDM) 802.11b : 直接スペクトラム拡散方式(DSSS)
	使用周波数範囲	2.4GHz帯(全13ch)
	通信速度	802.11n(40MHz) : 最大300Mbps(理論値)、 802.11n(20MHz) : 最大130Mbps(理論値) 802.11g : 最大54Mbps(理論値)、 802.11b : 最大11Mbps(理論値)
	セキュリティ	WPA2、WPA、WPA2-PSK、WPA-PSK <AES/TKIPから選択> IEEE802.1X認証、WEP(64/128bit) MACアドレスフィルタリング、ANY接続拒否(SSID名隠蔽)機能対応
	送信出力	10mW/MHz以下
	通信距離 ^{注2}	屋外:約~200m
	インターフェース	RJ-45型×1
有線LAN部	サポート規格	IEEE802.3/IEEE802.3u/IEEE802.3ab(10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T)準拠 IEEE802.3at/IEEE802.3af 準拠(PoE仕様)
	インターフェース	RJ-45型×1

注1: 予告なく仕様が変更される可能性があります。 注2: 無線通信距離は、AP が設置される環境により異なります。

『LANEX-AP0201n』無線 LAN アクセスポイントは、米国メルー・ネットワークス社の最新技術 (Air Traffic Control 技術)を採用する事により、高品質で信頼性の高い無線 LAN 環境の構築が可能です。

一般の無線LAN

干渉防止の目的から、1・6・11chで使用する事が多い。
同一チャンネルの干渉を防ぐため、交互に配置するも...

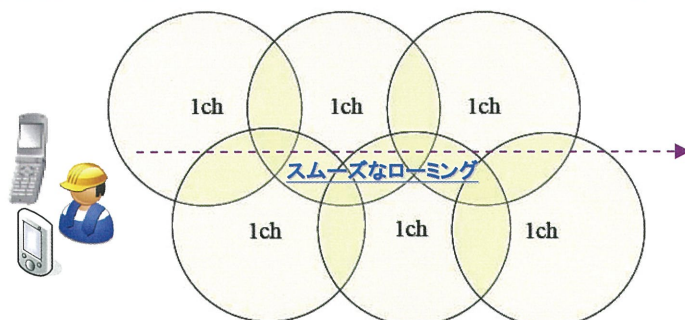


- ◇ AP配置計画時、同一チャンネルによる電波干渉発生に注意が必要。
- ◇ 電波干渉を防ぐ為に送信出力を弱めるとAP追加設置の可能性あり。
- ◇ ハンドオーバーは端末主導にて実施される。その際、通信断・音声途切れなどが発生する可能性あり。

LANEX-AP0201n

シングルチャネル/バーチャルセル方式

- ①全てのAPと端末の接続状況を把握し、AP間、AP~端末間の電波送信タイミングを時分割制御する事で、同一チャンネル干渉を全く発生させずに無線LAN環境を構築する事ができる。
- ②複数のAPを仮想的に1台(バーチャルセル)とみなす事が可能。



- ◇ APの送信出力をフルパワーにする事でAP設置台数を抑える事が可能! AP追加時もチャンネル再設計の必要なし。
- ◇ 1チャンネルのみで無線LANシステムを構築する事により、各種システム(無線計装など)との共存が可能!
- ◇ バーチャルセルにより、端末主導でのハンドオーバー発生なし。(通信断、音声途切れなどの発生を少なく抑える事ができます。)

JFE エンジニアリング 株式会社 <総販売元>

東京本社
〒100-0005 東京都千代田区丸の内トラストタワーN館19階
エネルギープラント事業部 営業部
Tel:03-6212-0047 Fax:03-6212-0069
鶴見事業所(横浜本社)
〒230-8611横浜市鶴見区末広町二丁目1番地
制御技術センター システム開発部
Tel:045-505-7748 Fax:045-505-6516

株式会社 宮木電機製作所 (製造及び販売)
本社 〒621-0013
京都府亀岡市大井町並河 3-16-18
<http://miyaki-elec.co.jp>

西部営業所 〒604-8431
京都市中京区西ノ京原町 99
TEL:075-841-5321 FAX:075-841-5533